



Extension Mobility

- [Extension Mobility の概要 \(1 ページ\)](#)
- [Extension Mobility の前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [Extension Mobility の設定タスク フロー \(2 ページ\)](#)
- [Cisco Extension Mobility の連携動作 \(12 ページ\)](#)
- [Cisco Extension Mobility の制限 \(14 ページ\)](#)
- [Extension Mobility のトラブルシューティング \(15 ページ\)](#)

Extension Mobility の概要

Cisco Extension Mobility により、ユーザは、お持ちのシステムのその他の電話機から一時的にラインアピアランス、サービス、スピードダイヤルなどの電話機の設定にアクセスできるようになります。例えば、複数の従業員で単一の電話を使用しているような場合、個々のユーザが電話機にログインし、他のユーザアカウントの設定に影響を及ぼさずに自分の設定にアクセスできるよう、Extension Mobility を設定できます。

ユーザが Extension Mobility を使用してログインした後、Extension Mobility プロファイルがすでにアプリケーションユーザに関連付けられている場合、CTI アプリケーションはデバイス関連の情報を送信します。

CTI アプリケーションは、デバイスを直接制御しなくても、ユーザが（その Extension Mobility プロファイルを使用して）ログインしているデバイスを制御できます。したがって、アプリケーションユーザへのデバイスプロファイルの関連付けによる記録は、デバイスに直接関連付けられていなくても機能するはずです。

Extension Mobility の前提条件

- 到達可能な TFTP サーバ。
- Extension Mobility 機能がほとんどの Cisco Unified IP Phone に拡張されている。電話のマニュアルを参照して、Cisco Extension Mobility がサポートされていることを確認する。

Extension Mobility の設定タスク フロー

始める前に

手順

	コマンドまたはアクション	目的
Step 1	電話機能一覧の生成	Extension Mobility機能をサポートするデバイスを特定するためにレポートを生成します。
Step 2	Extension Mobility サービスの有効化 (3 ページ)	
Step 3	Cisco Extension Mobility 電話サービスの設定 (3 ページ)	ユーザが後でExtension Mobilityにアクセスするために登録できる、Extension Mobility IP 電話サービスを設定します。
Step 4	ユーザの Extension Mobility デバイス プロファイルの作成 (4 ページ)	Extension Mobility デバイス プロファイルを設定します。このプロファイルは、ユーザがExtension Mobilityにログインするときに物理デバイスにマッピングするバーチャルデバイスとして機能します。この物理デバイスは、このプロファイルの特性を引き継ぎます。
Step 5	ユーザへのデバイス プロファイルの関連付け (5 ページ)	ユーザが別の電話機から設定にアクセスできるように、デバイスプロファイルをユーザに関連付けます。物理デバイスを関連付けるのと同じ方法で、ユーザにユーザ デバイス プロファイルを関連付けます。
Step 6	Extension Mobility への登録 (6 ページ)	Extension Mobility サービスに IP 電話とデバイス プロファイルを登録して、ユーザがExtension Mobilityにログインし、使用し、ログアウトできるようにします。
Step 7	クレデンシャル変更 IP 電話サービスの設定 (6 ページ)	ユーザが自身の電話機で PIN を変更できるようにするには、変更クレデンシャル Cisco Unified IP Phone サービスを設定し、ユーザ、デバイス プロファイル、または IP 電話を、変更クレデンシャル電話サービスに関連付ける必要があります。

	コマンドまたはアクション	目的
Step 8	(任意) Extension Mobility のサービス パラメータの設定 (7 ページ)	Extension Mobilityの動作を変更するには、サービス パラメータを設定します。

Extension Mobility サービスの有効化

手順

-
- Step 1** [Cisco Unified Serviceability] から選択します。[ツール (Tools)] > [サービス アクティベーション (Service Activation)] を選択します。
- Step 2** [サーバー (Server)] ドロップダウンリスト必要なノードを選択します。
- Step 3** 、次のサービスを有効化します。
- a) Cisco CallManager
 - b) Cisco Tftp
 - c) Cisco Extension Mobility
 - d) ILS サービス
- (注) ILS サービスをアクティブ化するには、パブリッシャノードを選択する必要があります。
- Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 5** [OK] をクリックします。
-

Cisco Extension Mobility 電話サービスの設定

ユーザが後でExtension Mobilityにアクセスするために登録できる、Extension Mobility IP 電話サービスを設定します。

手順

-
- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話サービス (Phone Services)]。
- Step 2** [新規追加] をクリックします。
- Step 3** [サービス名 (Service Name)] フィールドに、サービスの名前を入力します。
- Step 4** [サービス URL (Service URL)] フィールドにサービス URL を入力します。
- 形式は `http://<IP Address>;8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#` です。IP アドレスは、Cisco Extension Mobility が有効化され、実行している Unified Communications Manager の IP アドレスです。

これは IPv4 または IPv6 アドレスのいずれかです。

例:

```
http://123.45.67.89:8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#
```

例:

```
http://[2001:0001:0001:0067:0000:0000:0000:0134]:8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#
```

この形式により、ユーザーはユーザー ID と PIN を使用してログインすることができます。Extension Mobility サービスに登録した IP Phone ユーザーのサインイン オプションをさらに多く設定できます。さらに多くのサインイン オプションを設定するには、loginType パラメータを以下の形式でサービス URL に追加します。

- loginType=DN により、ユーザーはプライマリ内線番号と PIN を使用してログインできます。
サービス URL の形式は `http://<IP アドレス>;8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#&loginType=DN` です。
- loginType=SP により、ユーザーはセルフ サービス ユーザー ID と PIN を使用してログインできます。
サービス URL の形式は `http://<IP アドレス>;8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#&loginType=SP` です。
- loginType=UID により、ユーザーはユーザー ID と PIN を使用してログインできます。
サービス URL の形式は `http://<IP アドレス>;8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#&loginType=UID` です。

URL の最後に loginType を付加しなかった場合は、デフォルトのサインイン オプションとして [ユーザー ID (User ID)] と [PIN] が表示されます。

Step 5 [サービス タイプ (Service Type)] フィールドで、サービスが [サービス (Services)]、[ディレクトリ (Directories)]、または [メッセージ (Messages)] ボタンにプロビジョニングされるかどうかを選択します。

Step 6 [保存 (Save)] をクリックします。

ユーザの Extension Mobility デバイス プロファイルの作成

Extension Mobility デバイス プロファイルを設定します。このプロファイルは、ユーザが Extension Mobility にログインするときに物理デバイスにマッピングするバーチャルデバイスとして機能します。この物理デバイスは、このプロファイルの特性を引き継ぎます。

手順

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [デバイス プロファイル (Device Profile)]。
- Step 2** 次のいずれかの操作を行います。
- [検索 (Find)] をクリックして設定を変更し、結果一覧から既存のデバイス プロファイルを選択します。
 - 新しいデバイス プロファイルを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックして、[デバイス プロファイルのタイプ (Device Profile Type)] からオプションを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
 - [デバイス プロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リストからデバイス プロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- Step 3** フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 5** [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[新規 DN を追加 (Add a New DN)] をクリックします。
- Step 6** [電話番号 (Directory Number)] フィールドに電話番号を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
- Step 7** [リセット (Reset)] をクリックし、プロンプトに従います。
-

ユーザへのデバイス プロファイルの関連付け

ユーザが別の電話機から設定にアクセスできるように、デバイス プロファイルをユーザに関連付けます。物理デバイスを関連付けるのと同じ方法で、ユーザにユーザデバイス プロファイルを関連付けます。



ヒント 一括管理ツール (BAT) を使用して、Cisco Extension Mobility の複数のユーザ デバイス プロファイルを一度に追加および削除できます。 [Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド](#) を参照してください。

手順

- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[ユーザ管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)]。
- Step 2** 次のいずれかの操作を行います。

- 既存のユーザの設定を変更するには、検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックし、結果のリストから既存のユーザを選択します。
- [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しいユーザを追加します。

- Step 3** [Extension Mobility] で、作成したデバイスプロファイルを探して、それを [使用可能なプロファイル (Available Profiles)] から [制御するプロファイル (Controlled Profiles)] に移動します。
- Step 4** [ホーム クラスタ (Home Cluster)] チェックボックスをオンにします。
- Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。

Extension Mobility への登録

Extension Mobility サービスに IP 電話とデバイスプロファイルを登録して、ユーザが Extension Mobility にログインし、使用し、ログアウトできるようにします。

手順

- Step 1** Cisco Unified CM Administration で次のいずれかのタスクを実行します。
- [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択し、検索条件を指定してから [検索 (Find)] をクリックし、Extension Mobility に使用する電話機を選択します。
 - [デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [デバイス プロファイル (Device Profile)] を選択し、検索条件を指定してから [検索 (Find)] をクリックし、作成したデバイスプロファイルを選択します。
- Step 2** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから、[サービスの登録/登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- Step 3** [サービスを選択 (Select a Service)] ドロップダウン リストから、[Extension Mobility (Extension Mobility)] サービスを選択します。
- Step 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- Step 5** [登録 (Subscribe)] をクリックします。
- Step 6** [保存 (Save)] をクリックし、ポップアップ ウィンドウを閉じます。

クレデンシャル変更 IP 電話サービスの設定

ユーザが自身の電話機で PIN を変更できるようにするには、変更クレデンシャル Cisco Unified IP Phone サービスを設定し、ユーザ、デバイスプロファイル、または IP 電話を、変更クレデンシャル電話サービスに関連付ける必要があります。

手順

-
- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話サービス (Phone Services)]。
- Step 2** [新規追加] をクリックします。
- Step 3** [サービス名 (Service Name)] フィールドに、**Change Credential** と入力します。
- Step 4** [サービス URL (Service URL)] フィールドに、次の値を入力すると、サーバがクレデンシヤル変更 IP 電話サービスが稼働するサーバとなります。
`http://server:8080/changecredential/ChangeCredentialServlet?device=#DEVICENAME#`
- Step 5** (任意) [セキュア サービス URL (Secure-Service URL)] フィールドに、次の値を入力すると、サーバがクレデンシヤル変更 IP 電話サービスが稼働するサーバとなります。
`https://server:8443/changecredential/ChangeCredentialServlet?device=#DEVICENAME#`
- Step 6** [IP 電話サービス設定 (IP Phone Services Configuration)] の残りのフィールドを設定し、[保存 (Save)] を選択します。
- Step 7** Cisco Unified IP Phone をクレデンシヤル変更 IP 電話サービスに登録するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- Step 8** [電話機の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから、[サービスの登録 / 登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択します。
- Step 9** [移動 (Go)] をクリックします。
- Step 10** [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウンリストから[クレデンシヤル変更 IP 電話サービス (Change Credential IP phone service)] を選択します。
- Step 11** [次へ (Next)] をクリックします。
- Step 12** [登録 (Subscribe)] をクリックします。
- Step 13** [保存 (Save)] をクリックします。
-

Extension Mobility のサービス パラメータの設定

(任意)

Extension Mobilityの動作を変更するには、サービス パラメータを設定します。

手順

-
- Step 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)]。
- Step 2** [サーバ (Server)] フィールドで、Cisco Extension Mobility サービスを実行しているノードを選択します。
- Step 3** [サービス (Service)] フィールドで、[Cisco Extension Mobility] を選択します。

- Step 4** [詳細設定 (Advanced)] をクリックして、すべてのサービス パラメータを表示します。
これらのサービス パラメータとその設定オプションの詳細については、[Extension Mobility サービス パラメータ \(8 ページ\)](#) を参照してください。
- Step 5** [保存 (Save)] をクリックします。

Extension Mobility サービス パラメータ

表 1: Extension Mobility サービス パラメータ

サービス パラメータ	説明
クラスタ内最大ログイン時間の強制 (Enforce Intra-cluster Maximum Login Time)	<p>ローカルログインの最大時間を指定するには、[True] を選択します。この時間の経過後に、システムは自動的にデバイスをログアウトさせます。デフォルト設定の [False] は、ログインの最大時間が存在しないことを意味します。</p> <p>自動ログアウトを設定するには、このサービス パラメータに [True] を選択し、[クラスタ内最大ログイン時間 (Intra-cluster Maximum Login Time)] サービス パラメータにシステムの最大ログイン時間を指定する必要もあります。その後、Cisco Unified Communications Manager は、すべてのログインに対して自動ログアウト サービスを使用します。</p> <p>[クラスタ間最大ログイン時間を実施 (Enforce Intra-cluster Maximum Login Time)] の値が [False] に設定されており、[クラスタ間最大ログイン時間 (Intra-cluster Maximum Login Time)] サービス パラメータに有効な最大ログイン時間を指定すると、[クラスタ間最大ログイン時間を実施 (Enforce Intra-cluster Maximum Login Time)] は自動的に [True] に変更されます。</p>
クラスタ内最大ログイン時間 (Intra-cluster Maximum Login Time)	<p>このパラメータは、ユーザがローカルにデバイスにログイン可能な最大時間 (8:00 (8 時間) や :30 (30 分) など) を設定します。</p> <p>[クラスタ内最大ログイン時間の強制 (Enforce Intra-cluster Maximum Login Time)] パラメータが [False] に設定されている場合、システムはこのパラメータを無視し、最大ログイン時刻を 0:00 に設定します。</p> <p>有効な値は HHH:MM の形式で 0:00 ~ 168:00 です。ここで、HHH は時間数を、MM は分数を表します。</p> <p>(注) 内線モビリティを設定するためにユーザアクセスを許可する場合は、[ユーザプロファイル設定] の [エンドユーザが内線モビリティの最大ログイン時間を設定できるようにする] チェックボックスを使用して設定します。ユーザのセルフケアポータル内の設定は、クラスタ内の最大ログイン時間 サービスパラメータの値を上書きします。</p>

サービス パラメータ	説明
同時要求の最大数 (Maximum Concurrent Requests)	同時に実行可能なログイン操作またはログアウト操作の最大数を指定します。この数値により、Cisco Extension Mobility サービスがシステム リソースを過剰に消費するのを防止します。デフォルト値の5は、ほとんどのケースで適切な値です。
複数ログイン動作 (Multiple Login Behavior)	<p>ユーザが1つの電話機にログインし、その後同じクラスタまたは別のクラスタにある2台目の電話機にログインすると、ユーザは、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ページで定義されている [複数ログイン動作 (Multiple Login Behavior)] 設定に基づいて、2台目の電話機でログイン動作を表示できます。</p> <p>ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [複数のログインを許可する (Multiple Logins Allowed)]: 同時に複数のデバイスにログインできます。 • [複数のログインを許可しない (Multiple Logins Not Allowed)]: 1つのデバイスにしかログインできません。2台目のデバイスへのログインに失敗すると、電話にはエラーコード「25」 ([複数のログインを許可しない (Multiple Logins Not Allowed)]) が表示されます。最初のデバイスからログアウトした場合にのみ、正常にログインできます。これがデフォルト値です。 • [自動ログアウト (Auto Logout)]: ユーザーが2台目のデバイス (Extension Mobility または Extension Mobility Cross Cluster のいずれか) へのログインを試行すると、Cisco Unified Communications Manager が自動的に1台目のデバイスからユーザーをログアウトさせます。 <p>必須フィールドです。</p> <p>(注) 複数ログイン動作は、2つの Extension Mobility Cross Cluster ログイン間でも適用されます。</p>
英数字のユーザー ID (Alphanumeric User ID)	<p>ユーザ ID に英数字を含めることを許可するには、[True] を選択します。[False] を選択すると、ユーザ ID には数字しか含めることができなくなります。</p> <p>(注) [英数字ユーザー ID (Alphanumeric User ID)] パラメータは、システム全体に適用されます。英数字ユーザー ID と数字ユーザー ID を混在させることができます。システムは、英数字キーパッドを使用して入力可能なユーザー ID しかサポートしません。大文字と小文字が区別されるユーザー ID フィールドでは、小文字を使用する必要があります。</p>

サービス パラメータ	説明
ログインした最後のユーザーを記憶する (Remember the Last User Logged In)	<p>[いいえ (False)] を選択した場合、システムは電話機にログインした最後のユーザーを記憶しません。ユーザが一時的にしか電話機にアクセスしない場合に、このオプションを使用します。電話機にログインした最後のユーザーを記憶するには、[はい (True)] を選択します。電話機に1人のユーザーしかアクセスしない場合に、このオプションを使用します。</p> <p>たとえば、Cisco Extension Mobility を使用して、電話機から許可されたコールのタイプを有効化します。ログインしていない、オフィス電話を使用しているユーザーは、内線または緊急コールしか発信できません。ただし、Cisco Extension Mobility を使用してログインすると、市内、長距離、および国際コールを発信できます。このシナリオでは、電話機に定期的にログインするのはこのユーザーだけです。この場合は、ログインした最後のユーザー ID を記憶するように Cisco Extension Mobility を設定することには意味があります。</p>
クラスタ内 EM 上の通話履歴の消去 (Clear Call Logs on Intra-cluster EM)	<p>Cisco Extension Mobility の手動ログインまたは手動ログアウト中に通話履歴を消去するように指定するには、[True] を選択します。</p> <p>ユーザーが IP フォンで Cisco Extension Mobility サービスを利用している間は、すべてのコール（発信、着信、不在）が通話履歴に記録され、IP フォンのディスプレイに表示して確認できます。プライバシーを保護するには、[通話履歴を全件消去 (Clear Call Log)] サービスパラメータを [True] に設定します。これにより、あるユーザーがログアウトして、別のユーザーがログインしたときに通話履歴が消去されることが保証されます。</p> <p>Extension Mobility Cross Cluster (EMCC) では、ユーザーが電話機にログインまたは電話機からログアウトするたびに通話履歴が消去されます。</p> <p>(注) 通話履歴は、手動ログイン/ログアウト時にのみ消去されません。Cisco Extension Mobility のログアウトが自動的にまたは手動ログアウト以外の方法で発生した場合、通話履歴は消去されません。</p>

サービス パラメータ	説明
IP アドレスの検証 (Validate IP Address)	<p>このパラメータは、ログインまたはログアウトを要求している送信元の IP アドレスを検証するかどうかを設定します。</p> <p>このパラメータが [はい (True)] に設定された場合は、Cisco Extension Mobility のログイン要求またはログアウト要求が発生した IP アドレスが検証され、信頼できるかどうかを確認されます。</p> <p>検証は、最初に、ログインまたはログアウトするデバイスのキャッシュに対して実行されます。</p> <p>IP アドレスがキャッシュ内または信頼された IP アドレスのリスト内で見つかった場合や IP アドレスが登録済みデバイスの場合、デバイスはログインまたはログアウトできます。IP アドレスが見つからなかった場合は、ログインまたはログアウトの試みがブロックされます。</p> <p>このパラメータが [False] に設定されている場合は、Cisco Extension Mobility のログイン要求またはログアウト要求が検証されません。</p> <p>IP アドレスの検証は、デバイスへのログインまたはデバイスからのログアウトに必要な時間に影響する可能性があります、無許可のログインまたはログアウトの試みを阻止してセキュリティを強化できます。この機能は、特に、リモート デバイスの別の信頼されたプロキシ サーバからのログインとともに使用することをお勧めします。</p>
信頼された IP のリスト (Trusted List of IPs)	<p>このパラメータは、テキスト ボックスとして表示されます (最大長は 1024 文字です)。テキストボックスには、信頼された IP アドレスまたはホスト名の文字列をセミコロンで区切って入力できます。IP アドレス範囲と正規表現はサポートされません。</p>
プロキシを許可する (Allow Proxy)	<p>このパラメータが [True] の場合は、ウェブプロキシを使用する Cisco Extension Mobility のログイン操作とログアウト操作が許可されます。</p> <p>このパラメータが [False] の場合は、プロキシ経由で受信された Cisco Extension Mobility のログイン要求とログアウト要求が拒否されます。</p> <p>選択した設定は、[IP アドレスの検証 (Validate IP Address)] パラメータが [はい (True)] に指定されている場合にのみ適用されます。</p>
Extension Mobility の キャッシュ サイズ (Extension Mobility Cache Size)	<p>このフィールドには、Cisco Extension Mobility によって維持されるデバイスキャッシュのサイズを入力します。このフィールドの最小値は 1000 で、最大値は 20000 です。デフォルト値は 10000 です。</p> <p>入力した値は、[IP アドレスの検証 (Validate IP Address)] パラメータが [はい (True)] に指定されている場合にのみ適用されます。</p>

Cisco Extension Mobility の連携動作

表 2: Cisco Extension Mobility の連携動作

機能	連携動作
アシスタント (Assistant)	Cisco Extension Mobility を使用するマネージャは同時に Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用できます。マネージャは Cisco Extension Mobility を使用して Cisco Unified IP 電話にログインし、次に Cisco IP Manager Assistant サービスを選択します。Cisco IP Manager Assistant サービスが開始すると、マネージャはアシスタントと Cisco Unified Communications Manager Assistant のすべての機能（コールフィルタリングやサイレントなど）にアクセスできます。
BLF プレゼンス	<p>ユーザ デバイス プロファイルで BLF/スピードダイヤル ボタンを設定すると、デバイスにログイン後、Cisco Extension Mobility をサポートする電話は、BLF/スピードダイヤル ボタンに BLF プレゼンス ステータスを表示します。</p> <p>Extension Mobility ユーザがログアウトすると、Cisco Extension Mobility をサポートする電話は、設定されているログアウト プロファイルの BLF/スピードダイヤル ボタンに BLF プレゼンス ステータスを表示します。</p>
コール表示の制限	<p>コール表示の制限を有効にした場合、Cisco Extension Mobility は通常どおり機能します。ユーザがデバイスにログインするときの通話情報の表示または制限はそのユーザが関連付けられているデバイス プロファイルにより異なります。ユーザがログアウトするときの通話情報の表示または制限は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでその電話に対して定義される設定により異なります。</p> <p>Cisco Extension Mobility でコール表示の制限を使用するには、[デバイス プロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウと [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方で、[プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))] チェックボックスをオンにします。</p>

機能	連携動作
不在転送コーリング 検索スペース	<p>不在転送コーリング 検索スペース（CSS）の機能強化により、機能性を失わずに Cisco Unified Communications Manager の新しいリリースにアップグレードできます。</p> <p>[CFA CSS アクティベーションポリシー（CFA CSS Activation Policy）] サービスパラメータがこの機能強化をサポートします。[サービスパラメータ設定（Service Parameter Configuration）] ウィンドウで、このパラメータは次の2つのオプションとともに [クラスタ全体パラメータ（機能 - 転送）（Clusterwide Parameters (Feature - Forward)）] セクションに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [設定済み CSS を使用（With Configured CSS）]（デフォルト） • [アクティブなデバイス/回線 CSS を使用（With Activating Device/Line CSS）]
サイレント	<p>Extension Mobility の場合、デバイスプロファイル設定にサイレント（DND）着信コールアラートとサイレントステータスが含まれます。ユーザがログインしてサイレントを有効にすると、DND 着信コールアラートとサイレントステータスの設定が保存され、ユーザが再度ログインするとこれらの設定が使用されます。</p> <p>（注） Extension Mobility にログインしているユーザが DND 着信コールアラートまたはサイレントステータスの設定を変更しても、このアクションは実際のデバイス設定に影響しません。</p>
インターコム	<p>Cisco Extension Mobility はインターコム機能をサポートします。インターコムをサポートするために、Cisco Extension Mobility はインターコム回線用に設定されるデフォルトのデバイスを使用します。インターコム回線はデフォルトのデバイスでのみ表示されます。</p> <p>インターコム回線は、デバイスプロファイルに割り当てることができます。ユーザがデフォルトのデバイス以外のデバイスにログインしたときは、インターコム回線は表示されません。</p> <p>Cisco Extension Mobility のインターコムには次の追加の考慮事項が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unified Communications Manager がインターコム回線をデバイスに割り当て、デフォルトのデバイス値が空の場合、現在のデバイスがデフォルトのデバイスとして選択されます。 • AXL がプログラムでインターコム DN を割り当てる場合、Cisco Unified Communications Manager の管理を使用してデフォルトのデバイスを設定することにより、インターコム DN を個別に更新する必要があります。 • インターコム回線のインターコム デフォルト デバイスとして設定されているデバイスを削除すると、インターコム デフォルト デバイスは削除されたデバイスに設定されなくなります。

機能	連携動作
Internet Protocol Version 6 (IPv6)	Cisco Extension Mobility は IPv6 をサポートします。IP アドレッシングモードが IPv6 またはデュアルスタック (IPv4 および IPv6) の電話を使用できます。
プライム回線	[デバイス プロファイル (Device Profile)] または [デフォルトのデバイス プロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウの [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] パラメータで [オン (On)] を選択した場合、Cisco Extension Mobility ユーザは、Cisco Extension Mobility をサポートするデバイスにログイン後にこの機能を使用できます。

Cisco Extension Mobility の制限

表 3: Cisco Extension Mobility の制限事項

機能	制限事項
キャッシュ	Cisco Extension Mobility はすべてのログイン中のユーザ情報のキャッシュを 2 分間保持します。キャッシュに存在するユーザに関する要求が Extension Mobility に届いた場合、ユーザはキャッシュからの情報で認証されます。たとえば、ユーザがパスワードを変更してログアウトし、2 分以内に再度ログインした場合、古いパスワードと新しいパスワードの両方が認識されます。
コールバック	Cisco Extension Mobility のユーザがデバイスからログアウトすると、その Cisco Extension Mobility ユーザ用に有効になっているすべてのコールバックサービスは自動的にキャンセルされます。
文字表示	ユーザがログインするときに表示される文字は、現在の電話機のロケールによって異なります。たとえば、電話機が現在英語のロケール (電話機のログアウト プロファイルに基づく) の場合、[ユーザ ID (UserID)] には英語の文字しか入力できません。
保留復帰	Cisco Extension Mobility は保留復帰機能をサポートしていません。
IP フォン	Cisco Extension Mobility には、ログインに物理 Cisco Unified IP 電話が必要です。Cisco Extension Mobility で設定されているオフィス電話のユーザは電話機にリモート ログインすることはできません。
ロケール	ユーザまたはプロファイルに関連付けられているユーザ ロケールがロケールまたはデバイスと異なる場合、ログインが正常に完了すると、電話機は再起動してからリセットします。この動作は、電話機設定ファイルが再作成されるために発生します。プロファイルとデバイス間のアドオン モジュールの不一致でも同じ動作が発生します。

機能	制限事項
ログアウト	Cisco Extension Mobility が停止または再起動した場合、システムはログイン間隔の時間が経過したすでにログイン中のユーザを自動的にログアウトしません。つまりユーザの自動ログアウトは1日1回のみ行われます。電話機または Cisco Unified CM の管理から手動でこのようなユーザをログアウトさせることができます。
セキュア トーン	Cisco Extension Mobility および複数ライン同時通話機能サービスは、保護対象の電話では無効です。
ユーザ グループ	標準 EM 認証プロキシ権限のユーザ グループにユーザを追加できますが、追加されたユーザはプロキシによって認証する権限を持っていません。
ログインした最後のユーザを記憶する (Remember the Last User Logged In)	[ログインした最後のユーザを記憶する (Remember the Last User Logged In)] サービスパラメータが適用されるのは、デフォルトの Extension Mobility サービス URL、または loginType が UID に設定されている Extension Mobility サービス URL のみです。

Extension Mobility のトラブルシューティング

Extension Mobility のトラブルシューティング

手順

- Cisco Extension Mobility トレース ディレクトリを設定し、次の手順を実行してデバッグ トレースを有効にします。
 - a) [Cisco Unified Serviceability] から選択します。[トレース (Trace)] > [トレース構成 (Trace Configuration)]。
 - b) [Server (サーバ)] ドロップダウン リストからサーバを選択します。
 - c) [設定されたサービス (Configured Services)] ドロップダウン リストから、[Cisco Extension Mobility] を選択します。
- Cisco Extension Mobility サービスの URL を正しく入力したことを確認します。URL では、小文字と大文字が区別されます。
- 設定手順をすべて適切に実行したことを確認します。
- Cisco Extension Mobility ユーザの認証で問題が発生する場合は、ユーザ ページに移動して PIN を確認します。

認証エラー

問題 「エラー 201 認証エラー (Error 201 Authentication Error)」 が電話機に表示されます。

解決法 正しいユーザ ID と PIN が入力されていることを確認する必要があります。また、ユーザ ID と PIN が正しいことをシステム管理者と一緒に確認する必要があります。

ユーザ ID または PIN が空です

問題 「エラー 202 ユーザ ID または PIN が空です (Error 202 Blank User ID or PIN)」が電話機に表示されます。

解決法 有効なユーザ ID と PIN を入力してください。

ビジー。再実行してください (Busy Please Try Again)

問題 「エラー 26 ビジー。再実行してください (Error 26 Busy Please Try Again)」が電話機に表示されます。

解決法 同時ログイン/ログアウト要求の数が [同時要求の最大数 (Maximum Concurrent requests)] サービス パラメータより多いかどうかを確認します。大きい場合は同時要求の数を小さくします。



(注) 同時ログイン/ログアウト要求の数を確認するには、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool を使用して Extension Mobility オブジェクト内の Requests In Progress カウンタを表示します。詳細については、以下で『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。
<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>

データベース エラー (Database Error)

問題 「エラー 6 データベース エラー」が電話機に表示されます。

解決法 大量の要求が存在するかどうかを確認してください。大量の要求が存在する場合は、Extension Mobility オブジェクト カウンタの Requests In Progress カウンタに高い値が表示されます。大量の同時要求が原因で要求が拒否された場合は、Requests Throttled カウンタにも高い値が表示されます。詳細なデータベース ログを収集します。

デバイスのログオンが無効 (Dev Logon Disabled)

問題 「エラー 22 デバイスのログオンが無効 (Error 22 Dev Logon Disabled)」が電話機に表示されます。

解決法 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [電話機 (Phone)]) で、[Extension Mobility の有効化 (Enable Extension Mobility)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。

デバイス名が空白です

問題 「エラー 207 デバイス名が空白です (Error 207 Device Name Empty)」が電話に表示されません。

解決法 Cisco Extension Mobility に設定されている URL が正しいことを確認してください。詳細については、「関連項目」を参照してください。

関連トピック

[Cisco Extension Mobility 電話サービスの設定](#), on page 3

EM サービス接続エラー

問題 「「エラー 207 EM サービス接続エラー (Error 207 EM Service Connection Error)」」が電話機に表示されます。

解決法 Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能 (Control Center—Feature)] を選択することにより、Cisco Extension Mobility サービスが実行されていることを確認してください。

アップグレード中の Extension Mobility のパフォーマンス

Problem アップグレード後のパブリッシャー スイッチ バージョン中の Extension Mobility (EM) ログインパフォーマンス。

Solution Unified Communications Manager パブリッシャーのバージョン切り替え中に Extension Mobility (EM) ユーザーがログインしていて、パブリッシャーが非アクティブであると、バージョン切り替え中に EM ログインデータが失われ、EM プロファイルがログアウトされます。



Note EM ログインプロファイルがログアウトされている場合、ユーザーは再度ログインするか、バージョンの切り替え後に Unified Communications Manager がアクティブな場合にのみログインできません。

ホストを検出できません

問題 「「ホストを検出できません (Host Not Found)」」というエラーメッセージが電話機に表示されます。

解決法 Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンターのネットワークサービス (Control Center—Network Services)] を選択することにより、Cisco Tomcat サービスが実行していることを確認してください。

HTTP エラー (HTTP Error)

問題 HTTP エラー (503) が電話機に表示されます。

解決法

- [サービス (Services)] ボタンを押したときにこのエラーが表示された場合は、Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンターのネットワーク サービス (Control Center—Network Services)] を選択することにより、Cisco IP 電話サービスが実行していることを確認してください。
- Extension Mobility サービスを選択したときにこのエラーが表示された場合は、Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンターのネットワーク サービス (Control Center—Network Services)] を選択することにより、Cisco Extension Mobility Application サービスが実行していることを確認してください。

電話機のリセット

問題 ユーザのログインまたはログアウト後、再起動する代わりに電話機がリセットされます。

考えられる原因 このリセットは、ロケールの変更が原因だと考えられます。

解決法 特に対処の必要はありません。ログインするユーザまたはプロファイルに関連付けられているユーザ ロケールがロケールまたはデバイスと異なる場合、ログインが正常に完了すると、電話機は再起動し、次にリセットします。このパターンは、電話機設定ファイルが再作成されるために発生します。

ログイン後に電話サービスが使用できない

問題 ログイン後、電話サービスが使用できません。

考えられる原因 この問題は、電話機にユーザプロファイルがロードされたときに、ユーザプロファイルに関連付けられたサービスがないために発生します。

解決法

- ユーザ プロファイルに Cisco Extension Mobility サービスが含まれていることを確認します。
- Cisco Extension Mobility が含まれるように、ユーザがログインする電話機の設定を変更します。電話機が更新されたあと、ユーザは電話サービスにアクセスできるようになります。

ログアウト後に電話サービスが使用できない

問題 ユーザがログアウトし、電話機がデフォルト デバイス プロファイルに戻った後、電話サービスが使用できなくなります。

解決法

- [自動デバイス プロファイルと電話の設定間の同期 (Synchronization Between Auto Device Profile and Phone Configuration)] エンタープライズ パラメータが [はい (True)] に設定されていることを確認します。
- 電話機を Cisco Extension Mobility サービスに登録します。

ユーザは既にログイン済み (User Logged in Elsewhere)

問題 「エラー 25 ユーザは既にログイン済み (Error 25 User Logged in Elsewhere)」が電話機に表示されます。

解決法 ユーザが別の電話機にログインしているかどうかを確認します。複数のログインを許可する必要がある場合は、[複数のログイン動作 (Multiple Login Behavior)] サービスパラメータが [複数のログインを許可 (Multiple Logins Allowed)] に設定されていることを確認します。

ユーザ プロファイルなし

問題 「エラー 205 ユーザ プロファイルなし (Error 205 User Profile Absent)」が電話機に表示されます。

解決法 デバイス プロファイルをユーザに関連付けます。

■ ユーザ プロファイルなし

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。